カラーユニバーサルデザイン推進ネットワーク

**総務省への要望書提出について**

　昨年11月の大西健介衆議院議員が提出した質問主意書に対して国は、「消防本部ごとに色覚を理由に就職制限するかしないか決めていい」との答弁をしておりましたが、平成30年2月8日の予算委員会では野田総務大臣が「消防庁として一定の考え方を示すなど対応を検討するように指示を出した」ことを明らかにし、大きな前進がありました。

　そこで、消防庁の検討結果が明らかになる前に、カラーユニバーサルデザイン推進ネットワーク（以下、CUDNと呼ぶ）として総務省に対して要望書を提出します。

１．日時

3月28日11時30分～

２．場所

　総務省

3．出席予定者

　【総務省】

　小倉將信　総務大臣政務官

　【CUDN】

衆議院議員　大西健介（CUDN顧問）

松戸市議会議員　関根ジロー（CUDN事務局）

伊丹市議会議員　やまぞの有理（CUDN事務局）

NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構　伊賀公一（CUDN事務局）

NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構　田中陽介（CUDN事務局）

４．要望書

消防職員採用時における色覚検査の見直しを求める要望書

　私たちカラーユニバーサルデザイン推進ネットワーク（下記、CUDNと表記）は、「全国の超党派議員・NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構・学生」が協力し、全国の消防本部における色覚検査の実施状況調査を調査・公表をおこなっている団体です。

平成30年2月8日の予算委員会において大西健介衆議院議員が「消防職員採用時おける色覚検査の在り方」について質問し、野田総務大臣より「消防庁として一定の考え方を示すなど、対応を検討するように指示を出した」と答弁がありました。

CUDNは、これまでに36都道府県532消防本部における職員採用時の色覚検査実施状況を調査しましたところ、48.2%の消防本部が「色覚が採用に影響されない」と答え、且つその理由について「色弱があっても消防業務に支障がない」と回答しています。また「色覚が採用に影響する」と答えた理由をCUDNで分析したところ「合理的であるかは疑わしく、カラーユニバーサルデザイン推進をはじめとした職場環境整備・配慮で解決できる可能性が高い」ことが明らかになりました（添付）。

そこで、現在、消防庁が検討している消防職員採用時における色覚検査の在り方について、下記のとおり要望します。

記

１．カラーユニバーサルデザインをはじめとした職場環境整備・配慮を推進することを、全国の消防本部に通知すること

２．消防職員採用時において色覚検査を実施する理由（色弱者を排除する理由）を精査し、その結果を全国の消防で共有すると共に（その結果を公表すると共に）、理由の合理性を説明できない時、色覚検査を実施している消防本部に対し色覚検査の廃止を通知すること

以上